

2025年度 第2回 豊岡市子ども・子育て会議 議事要旨

日時	2026年2月26日（木） 13時30分～15時26分																			
場所	豊岡市民会館 3階 ギャラリー																			
出席者（委員）	岩本副会長、一ノ尾委員、今本委員、川島委員、渋谷委員、鈴木委員、永田委員、西垣委員、水田委員、森本委員、吉岡委員、和田委員																			
（事務局）	小野部長、若森課長、丸谷参事、福田主幹、谷垣係長、吉本部次長、鳥居所長、道下課長補佐、三輪参事、細田課長補佐、樋口主幹、磯係長																			
欠席者（委員）	水落会長、井口委員、岩崎委員、田中委員、戸田委員																			
会議次第	<ol style="list-style-type: none"><li>1 開会</li><li>2 会長あいさつ</li><li>3 議事<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 報告<ol style="list-style-type: none"><li>ア 幼稚園・保育所・認定こども園の利用・申込状況について</li><li>イ 放課後児童クラブの利用・申込状況について</li><li>ウ 豊岡市の出生数の推移について</li><li>エ 2026年度予算 主なこども関連事業の概要について</li></ol></li><li>(2) 協議<ol style="list-style-type: none"><li>ア 2026年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業について<ol style="list-style-type: none"><li>(ア) 利用定員について</li><li>(イ) 量の見込みと確保状況について</li><li>(ウ) 乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の事業者の認可について</li></ol></li></ol></li></ol></li><li>4 その他<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 次回の会議日程</li><li>(2) その他</li></ol></li><li>5 閉会</li></ol>																			
配布資料	<table border="1"><tr><td>資料1</td><td>豊岡市子ども・子育て会議委員名簿</td></tr><tr><td>資料2-1</td><td>幼稚園の利用・申込状況</td></tr><tr><td>資料2-2</td><td>保育所・認定こども園の利用・申込状況</td></tr><tr><td>資料3</td><td>放課後児童クラブの利用・申込状況等について</td></tr><tr><td>資料4</td><td>豊岡市の出生数の推移について</td></tr><tr><td>資料5</td><td>2026年度予算 主なこども関連事業の概要</td></tr><tr><td>資料6-1</td><td>2026年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員</td></tr><tr><td>資料6-2</td><td>2026年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の量の見込みと確保状況</td></tr><tr><td>資料6-3</td><td>乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の事業者の認可について</td></tr></table>	資料1	豊岡市子ども・子育て会議委員名簿	資料2-1	幼稚園の利用・申込状況	資料2-2	保育所・認定こども園の利用・申込状況	資料3	放課後児童クラブの利用・申込状況等について	資料4	豊岡市の出生数の推移について	資料5	2026年度予算 主なこども関連事業の概要	資料6-1	2026年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員	資料6-2	2026年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の量の見込みと確保状況	資料6-3	乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の事業者の認可について	
資料1	豊岡市子ども・子育て会議委員名簿																			
資料2-1	幼稚園の利用・申込状況																			
資料2-2	保育所・認定こども園の利用・申込状況																			
資料3	放課後児童クラブの利用・申込状況等について																			
資料4	豊岡市の出生数の推移について																			
資料5	2026年度予算 主なこども関連事業の概要																			
資料6-1	2026年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員																			
資料6-2	2026年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の量の見込みと確保状況																			
資料6-3	乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の事業者の認可について																			

参考資料1

豊岡市子ども・子育て会議条例

参考資料2

豊岡市子ども・子育て会議傍聴要綱

参考資料3

認定区分について

議事要旨

1	開会	開会の宣言（事務局）
2	会長あいさつ	副会長あいさつ（会長欠席につき）
3	議事	
	(1) 報告	
	事務局	ア 幼稚園・保育所・認定こども園の利用・申込状況について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2-1~2</span>
	副会長	事務局からの説明に対し質問等はあるか。次に移る。
	事務局	イ 放課後児童クラブの利用・申込状況について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3</span>
	副会長	事務局からの説明に対し質問等はあるか。次に移る。
	事務局	ウ 豊岡市の出生数の推移について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料4</span>
	副会長	事務局からの説明に対し質問等はあるか。次に移る。
	事務局	エ 2026年度予算 主なこども関連事業の概要について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料5</span>
	副会長	事務局からの説明に対し質問等はあるか。
	委員	保育料の軽減について。利用者にとっては非常にありがたい政策。実際にこの4月の保育料からこの表に則り進められる予定か。
	事務局	4月の保育料から適用する。
	委員	「こども誰でも通園制度」について。現行の「ママの休日プレゼント」はどう変わるのか。
	事務局	「ママの休日プレゼント」については、基本的に無料で使っていただけるので、「こども誰でも通園制度」とは異なる。「ママの休日プレゼント」の事業は継続する考え。
	委員	2点質問する。ペアレント・トレーニング事業についてはどこから情報を得られるのか。医師の診断がなくても受けられると聞いたが、小学校からお便りをもらうのか。
		子育て施策の情報発信について。これは豊岡市で行われている子育て支援や施設についての情報発信という認識でよいか。
	事務局	情報発信については、市が行っている施策などを発信する。
		ペアレント・トレーニングについては、保健師が繋がっていたり、社会福祉課から利用を勧められる形を想定しており、小学校からすべての保護者に対して周知することは想定していない。
	委員	保健師に相談した上で利用するということか。
	事務局	その通り。
	委員	子育ての情報発信というのは、施設情報だけでなく、子どもとの関わり方を発信するということか。
		これからこどもを持つ人にとって、「子育てっていいよ」という情報発信なのか、だとすれば楽しいことだけじゃないので、子育ての困り感に対して、「周

りからこういう声かけがあったら、ほっとするね」とか。主に誰に伝えていきたいのか。

事務局 子育てに対し、負担感・不安感が強すぎるのではと感じている。マンガを使うことで感情移入しやすくなり、クスッと笑ったり、共感できるようなメッセージも含むことができれば。

広報に掲載するので対象は広く一般的になるが、こどもを持ちたいと思われる方、いま子育て真っ最中の方をターゲットとしたい。

事務局 子育てについての困り感、不安を抱えられているというのは承知しており、すでに市広報で「出張版★子育てなんでも相談室」として毎月紹介している。

今回計画しているのは、豊岡市では「子育てにやさしいまち」を目指し、すでにいろいろな先進的な取組み、制度・サービスを行っているが、それが子育て世帯の方はもちろん、市民の方に伝わっていないという課題感を思っている。そのため、マンガやSNSを使って皆さんに伝えていければということ。

事務局 また、現在、豊岡市のホームページにある子育てのページを、抜本的に見直している最中で、そのページでいろんな相談窓口を紹介できるのではと考える。

副会長 子育てに関わっている者が共感できる内容にしていければ。

事務局 なお、具体的なテーマ設定については案の段階である。

副会長 今、とてもいいことを言われたと思う。子育てはいいことばかりではないけれども、辛いことを前面に出されてしまうともっと辛くなってしまう。そのため、共感できるものであれば見ていただけるかなと思う。

事務局 共感が得られる手段として、マンガや動画を利用するという視点で考えているので、「共感」を意識してやっていく。

委員 情報発信に関して。まず、医療費の助成対象が高校生の年代まで拡大したが、どの程度市が負担するのか。

島根県知事が高校生までの医療費を無料にすると宣言し実施するらしいが、そのような自治体はまだないので、全額負担でないにしても、これは豊岡市の売りになると思う。

給食費の無償化。これはすでに明石市でやっているが、このような経済的支援の手段を打ち出したことで、明石市では部屋を借りられないぐらい若い移住者がすごく増えたという話で、財政面でも市政にすごく貢献している。

保育園の保育料を半額にすること。どこの市でもやっていることではないので、これらの項目だけでも、子育てに関する情報を市外の方に対して発信すると、さらに移住者が増えるのではないかと、そして市の財源に貢献できる部分があるのではないかとと思う。

福知山市では子育てのホームページではなく、移住者向けのホームページに、「福知山市ではこんな子育て支援をやっていきます」と掲載していて、それを見て移住しようという人が多くいる。

いま綾部市では京都市内からの若い世代の移住者が多いが、すごく上手に宣

伝している。こども計画は市内のこどもたちのためにあるので、市内向けの発信でいいと思うが、ちょっとこども計画からは外れても、人口減少対策という面では、市外へ情報発信されたらいいのでは。

事務局 資料16ページに詳細な資料を掲載している。高校生まで拡大した子どもの医療費助成については、外来での自己負担額を市民税所得割12万円以上で上限300円、12万円未満で無料になるように設定。高校生への助成については、他の市町でもやっている取り組みだと認識している。

市外向けの情報発信については、豊岡市のホームページで「飛んでるローカル豊岡」という移住者向けページでも情報発信をしている。

こどもへの特徴的な取り組みについて、そのページでも紹介をさせていただいている。

## (2) 協議

事務局 ア 2026年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業について

副会長 (ア) 利用定員について **資料6-1**

(イ) 量の見込みと確保状況について **資料6-2**

この議題については、西垣委員が城崎こども園長として利害関係者に該当し、公平な審議を行うため、西垣委員には一時退出を求める。

(西垣委員一時退出。)

事務局からの説明を求める。

事務局 (事務局説明。特に質問等なし。)

副会長 協議事項ア 2026年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業について  
(ア)利用定員について(イ)量の見込みと確保状況について、原案どおりでよいか。

全委員 異議なし。

副会長 原案通り承認とする。

ここで西垣委員の入室を認める。

(西垣委員入室。)

事務局 (ウ) 乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)の事業者の認可について **資料6-3**

副会長 事務局からの説明を求める。

(事務局説明。特に質問等なし。)

協議事項(ウ) 乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)の事業者の認可について、原案どおりでよいか。

全委員 異議なし。

副会長 原案通り承認とする。

副会長 次第にはないが、事務局から情報提供を。

事務局 昨日配布された豊岡市広報3月号の裏表紙に、城崎こども園がソニー教育財団(以下、「財団」)から最優秀園という賞を受賞された記事が掲載されている。賞の概要、どのように子育て支援に繋がるのかということとあわせ、

西垣委員からご紹介いただけたらと思う。

委員 財団のホームページを見れば今回の論文が掲載されており、ぜひお読みいただければ。

財団は60数年間、子育て・教育に関する社会貢献事業として、実践論文を募集されている。今回城崎こども園の保育実践について、初めて応募し、この度全国で2園だけの最優秀園に選んでいただいた。

ソニーという企業体の特徴として、科学する心というのがテーマになっており、0歳と1歳児の日頃の保育、日頃の様子について論文にした。

その論文の中では、我々が子どもを看ているとき、単にかわいいとか、安全に配慮する以外に、生まれたての赤ちゃんでも1歳児でも、世界に対する、自分なりの見方をしている。それが、これから大きくなるにあたり、いろんなものを分析する、科学する心の芽が育っているということを記載している。

今回、財団としても0歳、1歳の内容で初めての授賞だった。

財団の弁では、やはり子どもを看るということは、安全を確保して、子どもたちが元気に遊んでいることはもちろん、我々保育・教育に従事する人間が、もっと細かい心の動きに日々注意を払って看ている、ということを広く社会に対して発信をしていくことが、論文を募集している趣旨だということで、たまたま城崎こども園が受賞したが、内容については、保育に携わる皆さん方なら、誰もが納得される内容。

6月にこれに関する実践発表会を予定しており、全国から集まっていたくので、機会・ご興味があればご覧いただきたい。

また豊岡市内に向けても発信するが、今のところ、東京大学名誉教授の秋田喜代美先生と玉川大学の大豆生田 啓友（オオマメウダ ヒロトモ）先生にお越しいただき、公開保育と実践発表会をする予定としており、ぜひ地域の皆様にもご参加いただきたい。（拍手あり）

事務局 第1回のこの会議のときにも紹介したとおり、豊岡市のこども計画では「すべてのこどもがウェルビーイングに暮らしている」を長期目標として掲げ、「こどもの居場所がある」を具体的な手段としており、今年度、居場所マップの作成に取り組んでいる。

今回、このToyooka iD0という豊岡スマートコミュニティ推進機構が運営している子育て支援のためのサイト上に、居場所マップの試行版を作ったので、お手元のカードの二次元バーコードを皆さんのスマートフォンで読み込みご覧いただきたい。

計画中に想定するこどもの居場所のうち、まだ10数ヶ所しか登録していないが、すべての居場所を市で決めてしまうのではなく、実際に居場所を必要とする、利用される方から、こんな居場所があるという情報を受けて、どんどん増やしていこうと考えている。

そのため、現在市内の中学生、高校生の方から、居場所という言葉でな

く、友達と一緒にいると楽しい、自分1人でのんびりしたいときにここに行く「押しスポット」をどんどん教えてください、というアンケートを各学校にお願いをしている。アンケートの結果が集まれば、こちらの地図にどんどんピンを増やし、居場所が共有できるように地図に反映していくことを考えている。

(3)意見交換

副会長 年度末で退任される委員の方もおられ、せっかくの機会なので豊岡市の子育て支援について各委員の方からご意見、感想などあれば発言を。

委員 「ママの休日プレゼント」に関して。いろんな働き方、男性の育休の取得率も上がってきているなか、母親だけが休日を欲しいわけではなく、育児をする父親も使いたいかもしれないし、預かっている祖母が使いたいかもしれないというのもあり、「ママの休日プレゼント」という名称が、ジェンダーギャップの解消を謳う豊岡市に適切なのか。

副委員長 検討をお願いします。

委員 昨日、別の豊岡市主催の研修会で、担当の先生とお話したが、今年度、小学校・中学校において支援が必要なこどもが9百数十名あったと聞く。

豊岡市の小中校生の人数が3,400名、そのうち千名近くが、何かしら学校教育の場で支援が必要ではないかと考えられている。

つまり何らかの部分で現行の学校教育と合わないこどもが4分の1と非常に多くなってきていると考えれば、そのこどもたちを何とかしようとするよりも、受け入れる学校教育その他の部分が、大きく変わっていかないといけない。

こどもたちを学校教育の場、社会の場に合わせようとする大人の考え方自体が、もうすでに時代錯誤になってきているのではないかと、改めて強く思う。

まだまだ、社会とはこういうものだから、こどもたちが生きていけるように何とかしてあげなければという思いは、かえってこどもたちをつらい立場に置いてしまうことになるのだろう。

今後、こどもたちが社会に出ていくことを支える立場にある人間が、そういう考え方にシフトしていくことが、これから必要ではないか。

委員 私自身もシングルマザーとして、働いて子育てをしてきた中で、学童に息子をお願いしたことがあるが、待機児童があるということで、利用者の目線としては、安心して預けられる体制が継続されることが、ものすごくありがたいことと感じた。

また、私自身が情報を入手する手だてをあまりよくわかっていなかったのので、情報発信については広報とか紙で見るものだけではなく、いろんな方法で入手できることはものすごくありがたい。

委員 幼稚園保護者として、資料2-1の幼稚園の利用申し込み状況を見て、次の入園児がいなくてという状況を見ると、時代が変わってきているなどひし

ひしと感じた。

親から言われてきた子育ての常識がこどもに当てはまらない、その子に合ったアプローチができれば、と日々思っているなかで、小学校や保育現場の先生方は大変な思いをされて、目の前のこどもたち一人ひとりに合うよう、一緒に子育てしていただいていること、こどもたちのことを考えて取り組んでおられることに本当に感謝する。

五荘奈佐幼稚園は2027年度いっぱいまで閉園予定で、新入園児がいない状況の背景が何か教えていただけたら。

事務局 やはり、父親と専業主婦の母親とこどもという家族構成が減り、両親フルタイム共働きの核家族が増えているので、どうしても幼稚園でなく認定こども園、保育園という需要に変化していることと、保育の無償化によって、無料だったらより長く預かってもらえる方に行かせよう、となっているので。

委員 五荘奈佐幼稚園は今回年少児が少なかったのでは。

入園しても、1年か2年かで閉園というのがネックだったのか。豊岡全体で幼稚園がこども園になる動きがあって、入園を控えたというのもあるのか。

事務局 その影響かどうかというのは分析してないが、申し込み自体もすごく少なかった。

委員 報告や協議を通じて、本当にこどもを取り巻く環境の変化を改めて実感。

出生数を見ると厳しい状況にある今だからこそ、こどもたち一人ひとりを丁寧に支えていくことが大切だと感じた。

また、こども誰でも通園制度という新しい取組みも含めて、保護者の安心に繋がる施策が進んでいることを心強く感じた。

いつも子ども・子育て会議に参加していて、改めてこどもたちの育ちを社会全体で支えていく大切さを感じた。現場としても丁寧に対応したいと思う。

委員 中学校の保護者として以前から思っていることについて。今年はすごい大雪で、スキー場も賑わっているかと思いきや、お客さんを集めるのが、大変な様子。

シーズン券を買うくらいスキーとスノボがすごく好きだが、スキー場が地元のこどもたちが気楽に、気軽に行ける場になって欲しいと常日頃思っている。

例えば、去年ぐらいまで小中学生は申請すれば日曜日は千円。せっかく地元でスキー場があって、気軽に行ける場所が近くにあるので、市内の小中学生だったらいつでも千円とか、地元のこどもたちが地元ってこんないいとこだ、と思える機会が増えれば。

委員 こども誰でも通園制度は、とてもいい制度で、何年か早ければぜひ自分も利用したかった。

幼稚園の利用人数が少ない点について、背景としては、就労している母親

の増加があると思うが、他府県では3年保育が当たり前で、中には4年間のところもあるなか、豊岡市では2年保育しかなく3年保育があれば、利用人数も変わってくるのでは。

委員 子ども・子育て会議に参加して、豊岡市のいろんな取組みを知り、自分自身が考えていけないといけないことも多々あると感じた。

先日、学校運営協議会や保健委員会に参加した際、小学校が特別授業枠で運動会の練習をしたり、校外授業をしたり、スキー教室に行ったりしている中で、全然、授業時間が足りず、本当に親も子どもも先生も忙しい状態。

学校ができることは、本当に限られていて、上辺だけのことしかできてないといすごく感じた。

保健委員会では、子どもたちがYoutubeなり、スマホなりで、早い段階でいろんな知識を知ることはいいいことだが、学校では体育の授業はあるものの、全体的な運動量が全く足りておらず、そこから運動不足につながるのを感じる、と内科の医師からも指摘された。

子どもたちが自由に遊べる時間は、中間タイムなり、ご飯を食べた後の昼休憩がメインになっているが、子どもたちを学童に預けている我が家では、学童に行って遊ぶか、両親のいない家に帰って、テレビやタブレットをするので、すごく依存度を増していて、そこから運動をする機会も失われているのかなと。

子どもたち自身が、僕はこれを頑張るぞという部活動のような目的がないと感じる。

学校の授業の中で足りてない部分を、地域が補うようサポートが必要。

3年生・5年生が学Pで田植えをするが、学校の時間数が足りないから、稲刈りをして干したままの状態を稲を放置している。

それを食育として食べるところまで経験させるには、地域が入っていくしかないということで、今年、小学校側と地域をうまくつなぎ、子どもたちに本物の体験をさせたいと考えている。

中学校でも不登校児がいたりするが、子どもたちの心は豆腐みたいにやわらかく、大人が声のかけ方も気をつけないといけないし、子どもたちの気持ちにしっかり寄り添って対応していかないといけないと思う。

委員 「ママの休日プレゼント」、ママに限定する名称はどうかとの委員の意見に大賛成。

昨年5月に次男に子どもができた。次男は母親よりもたくさん育児している。若い人を見ていると、仕事を持っている母親も多く、私みたいな祖母も育児に参加するので、ママだけではない。

一方で、ハイテクが苦手な祖父母もいるので、子育てアプリでなく、紙ベースで居場所マップを作られるとありがたい。

このたび策定された子ども計画は、未就学児、小中学生、高校生、大学生、30代でも自分を子どもだと思える人が対象の計画で、アンケートを実施す

るときにはかなり幅広い世代にしているのです、小中学校のあり方は、計画の中で問題にしていかなければならないところ。

問題を抱えたお子さんも非常に多いという話では、大学に進学できる学力があっても、発達障害を抱えた方はたくさんおられる。カミングアウトしたい人もいれば、隠したい人もあり、本人の意向に沿って指導している。

恐らく小中学校のときから苦労されていて、ある時診断されて、親子ともに安心した例、また発達障害まではいかないが、親がグレーだな、と悩む事例というのもある。

日本の教育は非常に杓子定規で、クラスの中で椅子に座って、先生が教えられることに従うという集団型。どっちがいいのかは別として、それは日本のスタンダードであって、世界のスタンダードではない。

フィンランドの小学校は、児童に座ることを強要しないので、みんな走り回っているが、先生は怒らない。

そして、グループになり、先生が教えるのではなく、こどもたちが自分で考えて、理解していく大学のような「アクティブラーニング」というグループディスカッションをする。学力が非常に高い国として有名な国である。

日本でもそういう学校があってもいいのではないかと思うが、逆にフィンランドの教師が日本の東京の小学校へ視察に来ると、日本はすばらしい、規律がある、これはフィンランドに取り入れるべきだと言って帰られる。なので、どちらがいいとは言えない。

文科省が定めたルールがあるので全体をそうするのは難しいかもしれないが、折衷型が一番良くて、例えば、豊岡市の小学校では1週間のうち1日だけ、そういう自由にしてもいい日を設ける、みたいなことをやると、これは対外的にアピールできるし、こどもたちも救われる。最初のこども計画の文言の中に、「こどもの多様性が尊重され、自己肯定感を持って自分らしく暮らしている」というのが挙げられているが、じっと座ってられない子でも、算数ができない子でも、国語ができない子でも、楽しく過ごせるような教育を目指す動きがあってもいい。

私の孫も今9ヶ月で、話をしてもこっちの話が通じているとか、アンパンマンのマーチを聞かせたら、体を揺らしていた。赤ちゃんは何も感じていないのではなく、五感で感じている。

城崎こども園の受賞を聞き、月齢の低い子どもに対し、こどもと同じ目線でその子たちのいいところを伸ばそうという保育園が豊岡市にあるとすごく感動した。

自分も長男が小5、次男が小2年までは専業主婦をしていて、それから大学院に入り大学の教員になったので、専業主婦の方の気持ちもすごくよくわかるが、非常に孤独で、預かり保育などを利用してとても楽になったので、保育園としても市としてもいろいろ大変な部分もあるかと思うが、こども誰でも通園制度をぜひ軌道に載せていただきたい。

また、小学生の運動量が足りないことについては、豊岡市に限らず全国的な傾向。我々がこどもの頃よりも外で遊べる場所が少なかったり、こどもたちがゲームの方が好きだったりということがある。

学Pで収穫したコメを商品化できなければ、食べるところまでこどもに経験させようとする地域が入るしかないという言葉には頑張っていたきたい。「地域で子育てという言葉」は今も必要なのではないか。

最後に、資料4、こどもたちの数が半減しているというグラフは豊岡市だけでなく、近隣の市町村でも同じようなことが起きているが、落ち込み方としてはかなり大きい。

ジェンダーギャップ対策のようないろいろな取り組みをしている状況でも、なかなか難しい部分があるんだとショックを受けた。

豊岡市は人口減少対策に関して、かなり力を入れて取り組んでいる市と感じているが、なお、みんなで考え、力を入れていくべきと思った。

委員 私事だが、昨年4月に入籍、6月に結婚式を出石で挙げた。7月には妻の出産を控えている。

この会議に参加した時は、「若者」というカテゴリーだったが、ようやく皆さんと同じ親というステージに立とうとしたところでもう会議が終わってしまい、非常に残念。

これからこどもを育てていく中で、豊岡にこういう仕組みや政策があることを知れたので、親としてはありがたい機会をいただいた。

ひとり豊岡市に赤ちゃんが生まれるということで、また諸先輩方にも何かお力をいただける機会があればと思う。

委員 こどもの目線というのは、0歳も1歳も知性を感じる。

みんなマスクしていたコロナ禍の時、マスクで目しか見えなくても、マスクの下で微笑むと、0歳の子が微笑み返す。この人は自分に笑ってくれている、とわかる場所はすごいと驚いた。

うちの園ではハイハイをしっかりしようと、立っている子がいたら、ハイハイしてから徐々に立っていくよう指導している。

ママの休日プレゼントは1回しか使えない。こどもは親と離れる経験がない状態で、全く知らない人ばかりだと泣く。慣れるまでには回数がある。

こども誰でも通園制度についても、皆さんは評価されているが、月10時間では、1日5時間ずつ預けたら2回で終わる。3回目、4回目の利用をしようと思っても、翌月にならないと利用できない。

1時間300円とすると5時間で1,500円の保護者負担で預けられるのはいいが、慣れるためには量的に不十分。

一番心配するのは、下の子ができて育休に入られて、兄姉を預けていた園から退園を求められたら、週に1回程度のペースぐらいで利用できなければ不十分。

現在の制度では中途半端なので、市の負担で10時間を15時間とか20時間ま

<p>事務局</p> <p>委員</p> <p>副会長</p>	<p>で使えるようにできれば、この制度が本当に生きてくると感じる。</p> <p>保育料の軽減について、ひょうご保育料軽減事業により今年、園から15万ぐらい家庭に一度に返金したが、保育料軽減後の同事業への影響はどうか。</p> <p>ひょうご保育料軽減事業は県の事業。保育料本体の軽減ののち、この事業の該当者については、保育料を徴収された保育園に対して案内する。</p> <p>スキー教室を手伝ってくれる人、指導員をお願いするのが、なかなか大変。丸々1日お世話になるし、</p> <p>当園では毎日の園児の様子をweb発信していたので、それが色々なところで目に留まり入園希望者が増えたので、情報発信は大事なことだと思う。</p> <p>学習障害を持って、支援が必要な子に対し、小学生に限らず未就学児も看られるように保育士も配置した施設を作ったので利用していただけたら。</p> <p>たくさんのご意見ご感想、ご報告をいただいた。</p> <p>地域との連携・共生が一番重要になってくると思う。</p>
<p>4 その他</p> <p>(1) 次回の 会議日程</p> <p>事務局</p>	<p>今年度の会議は、今回が最終回。次回の開催は2026年度ということになるので、改めて案内する。</p> <p>なお次回は、こども計画が2025年度から始まり、丸1年が終わるので、その実績報告、子ども・子育て支援事業計画の点検評価といった内容で開催したい。</p> <p>これを持って本日の会議を終了させていただく。</p>
<p>9 閉会</p>	<p>副会長あいさつ</p>